

評価委員会総合評価

研究課題名：メソ・局地アンサンブルを利用した顕著現象に対する最適予測
シナリオの構築

評価委員

委員長：松村崇行

委員：干場充之、永戸久喜、小川智、山中吾郎、高槻靖、石元裕史、
加藤輝之、須田一人、中村雅基、高木朗充、徳廣貴之、小司禎教

評価年月日：令和6年2月22日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

顕著現象について、アンサンブル予報からの決定論的プロダクトの研究自体が未開拓の分野で、アンサンブル予報から決定論的プロダクトへの取り組みはチャレンジングである。現業領域アンサンブル予報の予報現場での利活用促進と業務改善、及び気象研究所におけるアンサンブル予報利活用に関する研究開発の両面に資するとともに、地方官署における人材育成・技術力向上にも資する重要な取り組みである。今年度まで実施された研究課題「メソアンサンブルを利用した決定論的予測技術の改善」の成果を活用し、更なる発展・深化を志向する研究計画になっており、一貫性・継続性が保たれている。後継となる本課題では、札幌・仙台に加えて新たに大阪・福岡の両管区からも研究に参画し、更に現業運用が予定されている局地アンサンブルの検討も行うなど、より多くの地域・事例への手法の適用と改善・高度化や、現象・アンサンブル予報技術両面での多くの知見の取得等が期待される。更に、線状降水帯などより顕著な現象に対しても開発された手法の適用が進み、観測予報業務の改善に大きく寄与するものと期待される。

実施に当たって、下記を念頭に取り組んでいただきたい。

- ・ 本庁関係部署（予報課・数値予報課等）とも連携し、研究・開発成果がより広く業務に還元されるように努めながら研究を進めて頂きたい。
- ・ 現業への適用に向けた課題点の洗い出しにも期待する。
- ・ 地方官署の職員の方と密に連携して本研究を実施していただきたい。